ひだご坊
No.274
2012年5月20日

発行　真宗大谷派 高山教務所
発行者　大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
＊毎月20日発行　50,000部
三市一郡無料配布
印刷　山都印刷株式会社

念じられ照らされて

善意や同情に潜む差別

徳田靖之

〈略歴〉
一九四四年　大分県別府市に生まれる。一九六九年　弁護士となる。弁護士法人徳田法律事務所所属。ハンセン病西日本訴訟共同代表、飯塚事件再審弁護団代表。今年度高山教区公開講座講師。詳細は下記案内参照。

善意や同情は、時に人を傷つけ、差別へと反転する。

二〇〇三年十一月、熊本県内で、国立ハンセン病療養所菊池恵楓園の入所者に対する宿泊拒否事件が起きた。

同園に入所している熊本県出身者のために、熊本県が県内の観光地へのバス旅行を企画していたところ、一旦は、受入れたホテル側が、他の宿泊者が迷惑するという理由で拒否したのが発端である。

徹底的な隔離政策によって帰るべき故郷とのつながりを断たれた入所者にとって、年に一回の「里帰り」行事だった。

事態を重くみた県知事の抗議を受けて、ホテル側は、宿泊拒否を撤回し、総支配人が恵楓園を訪れて謝罪をするに至ったが、この時入所者の側が差別であるとして抗議した状況がテレビ等で報道されたところ、全国各地から入所者自治会や国賠訴訟原告団に、誹謗・中傷の手紙・メール等が三百通以上殺到したのだ。

その大半は、次のようなものであった。

「貴方達ももう少し謙虚になりなさい。…身体ばかり醜いだけではなく、心までも醜いですね。謝罪をされたホテルの人に対して声高らかに抗議している貴方達の見苦しさに我慢出来ず便りしました。」（六十才女性）

「あやまちに対して相手が謝罪しているにもかかわらず、それに対して聞く耳を持たず、人を許す気持ちを生来から持ち合わす事なく…そんなやさしさや広い心のかけらも無い人間であるから、不幸な病気にかかったのです。…人をせめるのが楽しいとか気分が晴れるとか、得をするとかの精神では浮かばれないと思います。」（本音をいう人より）

この人たちは、ごく普通の市民であり、ハンセン病隔離政策の誤りについては理解をし、その被害にあったハンセン病の元患者に対しては、同情を惜しまなかった人たちだと思われる。当時の小泉首相が歴史的な熊本地裁判決に対して控訴を断念した時には、これを高く評価して、内閣支持率を九十パーセント近くまで押し上げた人たちに含まれてもいたはずだ。

そうした理解や同情をしていたはずの「善意」の人たちが、何故に、このような怒りにまかせた抗議の意思表示を被害者に投げつけて傷つけるような行動に至ったのだろうか。

この問いを解くことが、ハンセン病問題に限らずあらゆる差別の問題を考えるうえで、とても重要なことだと私には思われた。

確かたる自信がある訳ではないが、この人たちの理解や同情は、差別された人たちがあくまでも同情されるべき存在としてとどまっている限りにおいて、示されるものではないかと思われる。

差別された人たちが、つつましく控え目に差別に耐えていればいる程限りなく同情もし、理解を示すが、この人たちが立上り、差別に立ち向おうとすると、その理解や同情はたちまち消えうせ、違和感を生み、さらには嫌悪感へと形を一変するということではないか。

そして、自らが「善意」であると強く意識している人にこうした傾向がより強く表れるのではあるまいか。

真宗において大切にされている同朋という言葉は、こうした「善意」や「同情」を斥けたうえでのつながりこそが大切であることを示しているように思われてならない。

ハンセン病問題に出会うまでの弁護士としての私は、依頼者のために、何かをしてあげているという意識が濃厚であり、その故に、多くの過ちを犯してきた。

ハンセン病の問題こそが、私の弁護士としての「善意」の思い上がりに潜む差別性を抉りだしてくれたと心底思っている。

住職の言葉

極重悪人唯称佛

朝日高根組　賓蓮寺
中飯田　正夫

奥飛騨温泉郷平湯のナガセスッポン養殖場の敷地内に、高さ四メートルの「極重悪人唯称佛」の碑が立てられています。

建立された今は亡き社長の長瀬元吉さんは熱心な真宗門徒でした。寺の境内には親鸞聖人の行脚像、恵信尼公、覚信尼公の親子三人の像を建ててくださいました。

親鸞聖人の教えを平湯を訪れる人にぜひ知ってもらいたく、極重悪人の碑を建てるが、その意味を住職に書いてもらいたいと頼まれて書いた言葉がその碑の側に刻まれています。

「人間は自己中心で生きています。善いとか悪いとかいっていますが、その尺度は自分中心の物差しです。自分に都合よいことを善とし、都合の悪いことを悪としています。その判断は間違いないとして、他をさばき、傷つけ生きているのです。自分の考えを是とし、他を非とする生き方ほど恐ろしいことはないのです。

親鸞聖人は正信偈の中に「極重悪人唯称佛」と書かれ、煩悩にまみれて自己中心的な生き方しか出来ない人間は、南無阿弥陀佛の教えに照らされながら生きていこうとおっしゃるのです。」

その碑の裏に建立された年と極重悪人長瀬元吉と書かれています。

真宗の教えは善人になるのではなく極重悪人の私でありますと気づく教えです。苦難の人生をお念佛を頂き生きられた建立者の意をしのばずにおれません。

一度、訪ねて見て下さい。

公開講座

わたしの「差別」への問いかけ

～ハンセン病問題との出会いを通して～

ハンセン病問題は、自分たちにとって都合の悪い人々を排除し隔離してきたという問題です。同時に、相手の人間性を無視した私自身が、実は人間であることを見失ってきたという問題です。いま私たちに願われていることは、具体的なひとりと出会いながら、私たちがあたたかな血のかよった人間に立ち帰っていくということではないでしょうか。

（2008年高山教区ハンセン病問題全国交流集会開催趣旨より）

今回、徳田弁護士をお招きし、ご自身がハンセン病国家賠償訴訟に関わる中で明らかになった国家や私たちの責任について、弁護士の立場をこえてお話いただきます。私たちが「人間に立ち帰る」とはどういうことか、ともに考えていきたいと思います。

期日　2012年6月2日（土）
午後7時～9時30分

講師　徳田　靖之（とくだ　やすゆき）氏

会場　高山別院御坊会館

入場無料

☎テレホン法話（0577（34）2313）○5月21日～31日…山本憲人氏　○6月1日～10日…長田範央氏　○6月11日～20日…野崎尚斉氏

✿宗教トラブル総相談窓口（0577-32-0763）

『恵信尼消息』から見える親鸞像

日野一門の援助

井上　円

親鸞聖人の生涯は、日野一門との関係を抜きには考えられない。覚如の『御伝鈔』には、九歳で仏門に入る時、父有範の長兄範綱を義父としていたと明かしている。その出自が、比叡山での「堂僧」（第三通）という立場にも反映していたと考えられる。

法然門下でも、日野家の人々が近くにいたことが分かる。一二〇四（元久一）年十一月の『七箇条制誡』の署名者百八十九人の中で、八十七番目に親鸞聖人が「僧綽空」と署名していることは有名であるが、十二番目の「宗慶」は曾祖父日野宗光の子で、祖父経尹の弟とされ、聖人の大叔父にあたる。八十一番目の「僧尊蓮」は伯父日野範綱の子信綱で、聖人の従兄である。七十八番目の「禅寂」も日野嫡流の兼光の子長親である。署名の順番も七十八番・八十一番・八十七番と接近している。

一二〇七（建永二）年、承元の法難で二月九日に逮捕監禁され、四人が死罪、法然上人以下八人の遠流が決まる。親鸞聖人はこの当時遠流の地となっていた越後に流罪と定まっている。その前の一月十三日、父の次兄である伯父宗業が、臨時の役として越後権介に任命され、一二一〇（承元四）年十二月二十日任を解かれるまで、四年近くの間この役を勤めている。罪人を預かる人は、その同族にする風習が成立していたといわれる。遙任（直接任地に赴かず役に就くこと）とはいえ、聖人の越後での生活を支えたであろうことは確かである。また『拾遺古徳伝絵』には、その罪科決定の議定で、日野一門の大福寺流六角親経の諫言により、聖人が死罪から遠流に減刑されたとも伝えている。

その後明らかなのは、帰洛後の一二四七（寛元五）年二月五日、聖人の従兄尊蓮が、聖人の『教行信証』の自筆本から書写を終えていることで、特筆関係が分かる。その子ども同士の覚信尼と広綱（法名宗綱）が結ばれたことは先述した通りである。その関係と親密さを考えあわせると、住居とした五条西洞院は、この尊蓮あたりが用意してくれたものかもしれないと想像を逞しくしている。また覚信尼の子覚恵は、父広綱の死後、日野家光（あるいは弟光国）の猶子（名義上の子）として青蓮院に入室している。

一二五五（建長七）年十二月十日、親鸞聖人一家の住む五条西洞院の住居が、火災に遭ったことが、高田派本山専修寺蔵の十二月十五日付け真仏宛自筆書状によって分かっている。「この十日のよ、しょうもうにおうて候う。この御ぼうよくよくたずね候いて候うなり、こころざしありがたきように候うぞ」とある。火災に遭った直後に、真仏ゆかりの円仏が訪問してくれたことを喜んで、円仏から詳しい事情を聞き取るように、真仏に書き送った書状である。この時の火災で、いろいろなものを焼失してしまったようである。このため、翌二二五六（建長八）年に、越後の恵信尼から京の覚信尼に出されたのが、『恵信尼消息』第一通（七月九日付け）と第二通（九月十五日付け）の二つの下人譲状である。出だしには「文書も焼かせ給いて候うらんとて申し候う」「証文を焼亡に焼かれて候うよし」とある。この火災の後、聖人の一家が移住した先が、三条富小路の善法坊である。この善法坊も、聖人の実弟尋有が主人を務める比叡山の東塔善法院の里坊であり、ここで、聖人は七年ほど生活をして、最期を迎えるのである。

このように尋ねてみると、親鸞聖人の生涯は、一面では日野一門の援助の中にあったとも言えるようである。聖人の亡くなられた後も、また本願寺となってからも、その関係は、長らく続いている。三代覚如を始め、四代善如・五代綽如・第八世の蓮如上人の時代まで、本願寺の歴代の多くが、青蓮院等に入室する際、日野一門の時の実力者の猶子となることで、その後ろ盾を得ているのである。

婦人研修会参加者募集

日時　6月25日（月）～26日（火）
会場　高山別院
講師　古田和弘氏（九州大谷短期大学名誉学長・大谷大学名誉教授）
講題　「いま、なぜ仏教なのか？なぜ真宗なのか？」
会費　3，000円
※お問い合わせは高山教務所（32－0776）まで

佐奈姫忌法要案内

佐奈姫（1633～1667）は、東本願寺第十三代宣如上人の娘で、照蓮寺宣心にわずか9歳で嫁ぎ、35歳の短い生涯を終えました。その墓前で法要を営み、聞法の座をもちます。

日時　6月26日（火）午後1時30分～
会場　松本町佐奈姫墓所　松本町公民館
講師　大町慶華輪番
※別院から送迎があります。午後1時までに別院事務所に集合ください。

ご回壇案内

六月十七日（日）真蓮寺
※詳細は会所のご寺院にお尋ねください。

真宗会開講座

【吉城組】
期日　6月3日（日）
時間　午後2時から
会場　誓願寺（飛騨市古川町）
講師　藤本愛吉氏（三重教区正寶寺）
参加費　無料

【朝日高根組】
期日　6月21日（木）
時間　午後7時から
会場　常照寺（朝日町青屋）
講師　辻俊明氏（富山教区明源寺）
参加費　500円

【荘川組】
期日　6月5日（火）
時間　午後7時30分から
会場　黒谷公民館
講師　三島清圓氏（高山教区西念寺）
参加費　500円

【益田組】
期日　6月22日（金）
時間　午後7時から
会場　桂林教会（下呂市森）
講師　譲西賢氏（大垣教区慶圓寺）
参加費　1,000円

同朋会運動 51年目に願いを新たに

今年、1962（昭和37）年に始まった「同朋会運動」が50年を迎えます。その新たな51年目の歩み出しにあたり、その願いを今一度確かめた上で、わが身を問うている現代の諸問題に向きあい、今後の歩むべき方向をともに考えていきたいと思います。

日時　2012年6月28日（木）午前10時から
会場　高山別院　御坊会館
講師　蓑輪秀邦氏
真宗大谷派教学研究所所長

入場無料
どなたでもご聴講いただけます。

児童 夏のつどい☆in恵林寺　7月25日（水）～26日（木）開催！

今年の夏のつどいは山村の生活を体験します。みんなで五平餅、豆腐作りをしたり、川遊び、キャンプファイヤーをします。飛騨地域のお友達とおもいっきり遊びましょう！

会場　恵林寺（清見町巣野俣）
参加費　3,000円（食費・保険等含む）
募集　80名
締切　7月9日（月）　※定員になり次第締め切り

参加者募集！
【対象】小学校3・4・5・6年生

【お申込み・問い合わせ先】真宗大谷派高山教務所 TEL(0577)32－0776

定例法座・法話（午後1時から）　○5月21日(月)…橋宣忠氏　○5月27日(日)…三本昌之氏　○5月28日(月)…旭野康裕氏　○6月1日(金)…小倉善信氏　○6月11日(月)…大町慶華輪番　○6月13日(水)…白尾宏氏